

# 連歌大観

連歌文芸の全貌を知る、待望の基礎資料

廣木一人  
松本麻子 編

第一期全三巻  
2016年7月  
刊行開始!



## 【執筆者一覧】※五十音順

浅井美峰	佐々木孝浩
生田慶穂	杉山和也
石川 一	鈴木 元
石澤一志	竹島一希
伊藤伸江	鶴崎裕雄
稲葉有祐	寺尾麻里
岩下紀之	鳥津亮二
梅田 径	永田英理
大村敦子	根来尚子
岡崎真紀子	長谷川千尋
奥田 勲	畑中さやか
尾崎千佳	廣木一人
嘉村雅江	深沢眞二
川崎佐知子	福井咲久良
岸田依子	ボニー・マックルーア
木下 優	松本麻子
木村尚志	宮腰寿子
久保木秀夫	両角倉一
雲岡 梓	山本啓介
黒岩 淳	渡瀬淳子
小林善帆	綿拔豊昭
小山順子	

## 『連歌大観』を推す

大阪大学名誉教授 鳥津忠夫

『連歌大観』第一期全三巻が刊行されることになった。連歌の表現は、従来は限られた資料しかなかった。この刊行は連歌の表現の全貌を知る上にきわめて重要なことと思われる。「菟玖波集」の撰集資料「小槻量実句集」より江戸末期の句集まで網羅されている。連歌句集は、もともと撰集のための資料として当座の作品から前句付句を抜き出して編まれたものであるが、また各作者の自選作品集としての意味も持っている。連歌表現の和歌表現との微妙な違いや、連歌独自の表現の違い、連歌表現の時代的变化の違いも、これにより具体的に知ることができるようになった点の意義は大きいものがある。

ここに連歌研究家はもとより、各時代の和歌を専門とする研究者にも、すでに刊行を見ている『新編国歌大観』『新編私家集大成』などとともに、購読されることを期待したい。

この書を広く好学の士に推薦したいと思う。

## 刊行のことば

廣木一人

連歌は、和歌とならぶ日本文学・日本文化の基盤となる文学である。五七五句と七七句だけを連ねる短連歌（二句連歌）は遅くとも平安中期には和歌と相違する文学として発生し、五七五句・七七句を百句連ねる定型たる百韻連歌は平安末期にその形態を調べ、室町期には和歌を凌駕するほどの隆盛、文学化を遂げることとなる。さらに、百韻のうち、発句と呼ばれた第一句は、俳句として世界に知られる文学となった。（中略）

和歌については既に『新編国歌大観』『新編私家集大成』、さらに連歌の後継文学である俳諧には『古典俳文学大系』があり、そのデジタルデータベース化によって、自在に言葉を検索することができる環境が整っている。これらの検索システムが日本文学・文化、言語研究に多大な貢献をなしたことは周知のことである。しかし、一首の和歌内での関連語句の検索では、当時の人々の言葉観、連想のあり方を探るには限界がある。それに比して、連想によって成り立っている連歌での付合、つまり前句と付句の関係の中における使用用語を探ることはこの限界を突き破るものであると言える。

本企画は、以上のような観点から、まずは、平安期から近世末までの連歌作品の本文提供を目指し、第一期として、連歌句集（発句および付合集）を中心とした本文と索引を収録する。その後は、連歌論・学書中の連歌作品、連歌作品の古注釈書、さらには百韻、千句、万句なども視野に入れている。

この完成によって連歌研究の基礎資料が調べられるのみならず、日本の古典・文化、さらには日本人の精神の具体的なありようを知る手がかりが提供されることと信ずる。

### 判型・予定頁数

B5判 3段組み  
各巻600頁予定  
全句索引CD-ROM付

第1巻 28,000円（税別）

好評発売中!

刊行予定

第2巻 2017年1月  
第3巻 2017年7月

古典ライブラリー

〈「連歌大観」ご予約・お問い合わせ〉株式会社 古典ライブラリー

〒261-0013 千葉市美浜区打瀬2-14-11-412 Email: kotenlibrary@gmail.com fax: 050-3737-2221

本書は書店でのお取り扱いはいたしておりません。Email または FAX にて直接弊社までお申し込みください。